＜４歳クラス　Ｖ期　４・５月　＞幼児の思いの読み取りを大切に「やりたい」を支える

これまでの保育の様子

４歳クラス児にとって４月は、保育室や担任が変わり、期待と不安が入り混じる時期である。そのような中、屋外中心の保育がスタートした。屋外の遊びに目が向きやすいように、テラスの周りの外遊びの道具を精選したり、植物や動物の図鑑や本を中心に置いたりして、環境を整えた。

幼児の遊び出しを見ていると、生き物捕まえ、料理づくり、砂場遊び、園庭の遊具を使った遊びなど、これまでの遊びの経験を想起しながら、思い思いに遊びを楽しんでいる様子であった。副担任とは、まず一人一人の幼児がどんな遊びが好きなのか、何に楽しみを見出しているのかをよく読み取っていこうと援助の方向性を確認した。

４月 17 日

Ａ児：「ねえ先生、こっちに来て」
教師：「Ａちゃん、どうしたの？」
Ａ児：「私ね、カレーつくったんだよ」
Ｂ児：「そうなの、ほら、これだよ」
教師：「うわあ、おいしそう」
Ａ児：「こうやって水で混ぜるとね、ほら、できたでしょ」
教師：「Ａちゃんはお料理上手なんだね。具は何が入っているの？」
Ａ児：「お肉がこれ。でね、にんじんがこれ」泥の塊を具に見立てる。
教師：「ああ、本当だ。鍋の底の方にあったんだね。ごめん、見えなかった」
Ｂ児：「ねえ、飲み物もあるよ。チョコドリンク」
Ｃ児：「私はね、お味噌汁つくったの。これもいいよ」
教師：「ありがとう。素敵なお料理がいっぱいで、いいお家だねえ」

Ａ児は、進級してから毎日のように泥と砂を使った料理をつくっていた。Ａ児の料理は、炒め物をつくるようにフライパンを揺らしたり、汁物をつくるように鍋に入れてお玉で混ぜたりしており、何をつくろうか明確なイメージがあるのではないかと読み取った。教師はＡ児の様子を見ながら、もしＡ児が泥や砂以外に草や花などを使ったら、Ａ児のイメージにより近い料理になり、遊びを広げるきっかけになるのではないかと考えていた。そのため、Ａ児に「ねえ先生、こっちに来て」と呼ばれたとき、草や花などに目が向くような援助をするよいタイミングであると捉え、「具は何が入っているの？」とＡ児に問いかけることにした。

Ａ児は泥の塊を具に見立て「お肉がこれ。でね、にんじんがこれ」と答えた。Ａ児の見立てを聞くうちに、料理に多様な素材を使ってほしいという願いは、今のＡ児の楽しみとは違う方向性であることに気付いた。Ａ児の今の楽しみは、あくまで泥や砂を使って、混ぜる感触を楽しんだり、違う形状の泥を何かに見立てたりする料理遊びなのだと捉えた。Ａ児の育ちや遊びの広がりを願ってはいたが、その幼児の今の楽しみと援助の方向性が同じかどうかをよく考えることがまずは大切であると捉え直した。

副担任との振り返りでは、「読み取る」ということの難しさが話題になった。多様に考えながら、育ちにつながるであろう言葉がけをしてみるが、この日のように、幼児の今の楽しみと教師の援助がかみ合わないことがある。しかしながら、この日のように言葉をかけてみたからこそ、かみ合っていないことに気付き、幼児の今の楽しみが何なのかが見えてくることもある。そのため、今後も、Ａ児の遊びの中での言葉、表情、かかわり、前日との変化など、多様な視点をもって思いを読み取っていこうと共有した。

また、幼稚園での生活の中に、Ａ児の「やりたい」につながるような「種まき」をしていこうと、援助の方向性を確認した。ちょうどそのころ、園庭にヨモギが茂り、ヨモギ団子をつくりたいという思いをもった幼児がいた。「あそび」の時間に、ヨモギ団子を実際につくり、「おやつ活動」の時間にみんなでそれを食べる経験をしたら、Ａ児にとっても料理の幅を広げるきっかけになるかもしれないと話し合った。そこでおやつ活動の日に、保育室の中にヨモギ団子がつくれる環境を構成し、おやつ活動の時間につくったヨモギ団子を食べることにした。

５月 11 日

A児：「先生、こっちに入ってもいいよ」
教師：「ここはAちゃんたちのお家かな？」
A児：「うん、そうだよ」
B児：「はやく座ってよ」
A児：「今日はね、味噌汁をつくったんだよ」
教師：「うわあ、おいしそうだね」
A児：「先生、もっと近くで見て」
教師：「今日のお味噌汁はこの前よりもきれいな色だね」
A児：「そうじゃなくて」
教師：「分かった、近くで見てみるね」
A児：「どう？いい香りでしょ」
教師：「本当だね、いい香り！」
　年少クラスのａ児が椅子に座る
A児：「これ食べたい？」
年少クラスａ児：「うん、食べたい」
A児：「いいよ。今お皿に入れるね」
年少クラスａ児：「ありがとう」

教師は、A児たち３人が遊んでいたテーブルから少し離れたところで、いつものように料理の遊びを見守っていた。A児がつくった料理の中にヨモギが入っているのが見えた。「先生、もっと近くで見て」とA児に言われたとき、ヨモギが入ったことによる彩りのよさを伝えたいのかと推察し、「きれいな色だね」とA児に伝えた。しかし、A児は「そうじゃなくて」と話した。A児が何を伝えたかったのかを考えながら料理を近くで見ていると、ヨモギの良い香りに気付いた。それと同じのタイミングで「どう？いい香りでしょ」とA児は満面の笑みを浮かべながら語りかけてきた。A児はその後、年少クラスのａ児にも自分から話しかけ、ヨモギが入った料理を出すことで、かかわって遊んでいる姿が見られた。

副担任との振り返りでは、A児はヨモギ団子を食べたときの香りによって心が動き、「香り」という要素が遊びの中に取り入れられたのではないかと共有した。同じ体験をしていても、心の動きは幼児によって異なる。同じクラスの他の幼児は、団子を捏ねた体験により心が動き、泥団子づくりの遊びを始めた。また、すり鉢でヨモギを磨り潰した体験により心が動き、色水遊びを始めた幼児もいた。遊びの中での「やりたい」を読み取っていくとき、幼児がどのような経験をして何に心を動かされたのかを思い描き、目の前の幼児の行動や言葉と重ね合わせながら考えていくことが大切であると感じた。

今後も、A児のくらしの中での心の動きをよく読み取っていこうと共有した。また、A児の「やりたい」につながる「種まき」として、次のおやつ活動の時間にプリンを出し、そこにチョコスプレーのトッピングを自分でかけて食べられるようにした。

５月 19 日

A児：「今日は、お団子をつくりますよー」
C児：「いいね。これ、お団子にちょうどいいね」
A児：「もうちょっと水が必要だよ、Cちゃん水汲んできて」
C児：「分かった」
A児：「ありがとう」
　２人で泥団子を形成する。
A児：「ねえ、何かトッピングしようよ」
C児：「じゃあ、私お花取ってくる」
A児：「先生もお花取って来て」
教師：「お花？何に使うの？」
A児：「お団子のトッピングにしたいの。いろんな色のお団子をつくるんだ」
教師：「分かった、先生もCちゃんと一緒に行ってくるね」
A児：「いろんな色があるといいな」
C児：「オッケー、待っててね。先生、行こう」

A児は、C児と一緒に泥を鍋の中に入れ、水を混ぜながらちょうどよい固さになるように調節しているようであった。教師は、A児の今の楽しみは何なのかを思い描きながら、その様子を少し離れたところから見守っていた。これまでお玉を使って料理をしていたA児が泥の中に手を入れ、「今日は、お団子つくりますよー」とC児に伝えた。そして、泥団子を捏ねて形成したあとには、A児は「何かトッピングしようよ」と泥団子に何かを添えることを提案した。

A児のトッピングという言葉を聞いたとき、もしかしたらおやつ活動での経験が生きているのではないかと捉えた。また、ヨモギ団子をつくってからおよそ一か月経っていたが、ヨモギ団子を自分で形成した経験も遊びにつながったのではないかと捉えた。ヨモギ団子を捏ねて形成したときにも、A児の心は確かに動いていたのだとこのとき気付いた。経験がすぐに遊びにつながるとは限らない。だからこそ、A児の育ちを長期的に捉えていくことが大切である。

その後、A児は、泥を天板に丸く塗り、上に花を載せてクッキーをつくったり、花のジュースを料理に添えたりして、多様な料理をつくっていた。４月の初めから泥と砂だけの料理を存分に楽しんだからこそ、次にやってみたいことが出てきたのではないかと捉えた。新しい環境になじむこの時期には、やはり幼児の読み取りを大切にすることが、幼児の「やりたい」を支えることにつながるのだと、A児の姿から考えた。

考察

Ｖ期を振り返るタイミングで、交流の一環として他園の職員とカンファレンスを行う機会があった。語り合いの中で、「幼児の経験には無駄なことは一つもない」という言葉が印象に残っている。この言葉を聞いたときに、A児のことが頭に浮かんだ。４月、ずっと砂と泥だけの料理を繰り返していたとき、遊びの広がりを願っていたが、この繰り返しによりA児は存分に泥や砂での遊びを楽しみ、次なる「やりたい」につながったのだと捉えている。まさに、「無駄なことは一つもない」、存分に楽しんだ経験が生きていると言える。遊びの援助をするとき、教師の願いが先行してしまうことがあったが、幼児の今の楽しみをまずはじっくりと読み取ることを大切にしたい。また、今回、おやつ活動の時間に「種まき」をしたことが、A児の次の「やりたい」につながったのではないかと捉えた。いつ芽を出すかは分からないが、長期的な育ちを願って種をまいておくことも「やりたい」を支えることにつながるのだと考える。

４月からの２か月間、日々「点」で捉えてきたA児の姿をつなぎ合わせていったからこそ、A児の育ちとして意味付けることができたように思う。幼児を読み取るとき、今の楽しみは何なのか、どのような経験をしてどのような心の動きがあったのかを思い描きながら、長期的に読み取ることが大切であると改めて感じている。